



巻頭言

街の動きから拾う学び

● 菅原公一 Kimikazu SUGAWARA

株式会社カネカ 会長・公益社団法人化学工学会 会長



昨年から化学工学会のお世話をさせていただいています。出自からいって発信は企業人としての視点を心掛けます。

街に出て街場からの感覚を大切にする企業人でありたい。行動する人でありたい。生活人の目を仕事に活かす経営を志しています。そんな視点から寄稿いたします。

海からの学び

魚箱を全国展開しています。魚が逃げている。驚きは魚が北に移動していること。銚子や気仙沼に揚っていた魚が根室・オホーツク近海でよく獲れる。海水温の上昇が理由です。北国（札幌）は50年ぶりの積雪の便り。どうやらドカ雪は海水の蒸発量が増大しているせいらしい。これも海水温が高くなる地球温暖化の影響とは不思議な話です。

2℃以内に気温上昇を抑えたい。世界の願いです。科学の力だけでは無理だけど化学と化学工学が力を合わせれば大きな Vehicle になるはずだ。

魚は避難できても人は動けない。カネカは爽やかで快適なゼロエネ住宅の技術開発に大きく舵を切っています。小さくてもできることから地球プラネットのストレス解消に役立ちたい。

アスリートからの学び

応援している三宅宏美さん（オリンピックメダリスト）からウエイトリフティングの魅力について話を聞きました。

「大切なことは、同じ流れ、同じ内容のマンネリ化したトレーニングをしないこと。マンネリしていることに気づくのは、たぶん、心地よく終わるときです。余力を残して、楽な感じで終わったときはマンネリ化していますね。ハードに追い込んだときは、体がクタクタで疲れ切っている。怖いのは心地よい充足感を得て、それに満足してしまうことです。現状に満足してしまうと、それ以上の成長はない」

感動した。優しい見た目の姿から想像できないメンタルの強さ。世界一になる夢を望み続けている強靱な入魂が勝利のドライバーでした。そして自説をもって生きている。アートな生き方のお手本でした。

アスリートも研究者も成功より失敗から学ぶことが多いという。共通するのは「Think and Grow Rich（願えば叶う）」な姿勢。研究者を「自説を活きるアスリート」に模して観る視点を教わった。経営力を鍛える必殺技かもしれない。

シアターからの学び

原発が生んだゴジラの圧倒的暴力を特撮やCG先端技術が暴く映画「シン・ゴジラ」。不意打ちから始まり社会の機能不全に警鐘を鳴らす。圧巻は血液を凍結凝固する化学者の奇策でゴジラが氷柱になる大団円。化学の力が混乱をセーブしてドラマは終わる。

ゆでガエルのように思考停止していないか。平時のガバナンスは大丈夫か。経営のクライシスマネジメントを見るようなスペクタクル映像を楽しんだ。

カラクリがわかる人とわからない人の差は、違和感があったら「アレッ、変だナ」と思えるかどうかだ。シン・ゴジラの映画を観て、考える力はカラクリを見抜く力だと思った。違和感はその背後にある特別な理由を見つけるアンテナだ。科学する力の醍醐味を味わった。

正月は風揚げならぬたくさんの本を読んで過ごした。

いろんな本を読むのはアスリートが筋トレするようなもの。エクササイズするように読書筋肉を動かしていると思考のキレは保つことができる。